

令和7年度

**「運営に関する計画」
最終評価**

大阪市立愛珠幼稚園

令和8年3月

大阪市立愛珠幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

子どもを取り巻く様々な様々な今般の状況から、引き続き、「新しい生活様式」を取り入れた園運営に取組み、教育活動を工夫し、幼児期の学びを保障することが重要である。指導にあたっては、幼稚園教育要領、就学前教育カリキュラム等を踏まえ、日々、実態に沿った見通しのある教育活動を展開すること、状況に応じて、適宜、活動の精選や実施時期の変更等、見直しを図り、幼児の負担とならないよう柔軟に対応すること等が必要である。

- これまでから、防災教育、防犯、交通安全、園内での安全な行動等、いろいろな安全教育に取り組んできており、安全・安心な教育環境の実現の重要性を認識している。地域は、高層ビルや高層マンションが建ち並び、周辺の道路は交通量が多い。園舎の構造上、各保育室等の引き戸、窓等にはガラスが多く使われており、廊下も長い。防災・減災教育の観点を踏まえると、今後も、安全・安心のための行動の仕方を知る、自分から危険を回避しようとする意識や態度が芽生えるように、これらの取組を総合的・計画的・継続的に行っていくことが必要である。
- 園児の9割以上は、高層住宅に住んでおり、核家族で家族構成が限られているなど、家族以外の人と接したり、同年代の子どもとふれ合ったりする経験が少ない。幼稚園は子どもたちが初めて経験する社会生活の場である。先のような実態から、友達や教師等、身近な人との関わりの中で、優しさや愛情、思いやり等の気持ちを育んだり、社会生活に必要な約束やきまり等を知り、守ろうとしたりすることができるような取組を継続的に行うことで、幼児期にふさわしい、道徳心や規範意識、社会性を育むことにつながると思う。
- これまで、様々な表現活動を楽しめるように、興味や関心をもって意欲的に活動するための指導法を工夫してきたことにより、その子どもなりの表現を楽しむようになってきた。発見や気づき、考えたり、工夫したりなど、表現を楽しむ中で、様々な学びがある。引き続き、思いを自分なりに表現することを楽しめるように支えていきたい。幼児期の教育で培った学びを小学校教育へと円滑につないでいくことが求められている中、遊びを通して、幼児期にふさわしい学びが育まれるように、存分に思いを表現するための指導や環境の工夫を行い、保護者並びに小学校関係者等への取組の理解のため、情報発信も必要と考える。また、発信方法、情報内容の工夫をすることで、家庭教育の支援、地域の子育て世代への支援にもつながると考える。
- 本園は交通量の多い道路や高層ビルに囲まれ、近隣で存分に体を動かす環境が少ない。移動手段も車や自転車等が中心で、高層住宅に住んでいる子どもの多くは、日頃から階段を登り降りする経験が少ない。加えて、コロナ禍により、感染症対策のため、これまで室内で過ごすことも多かったことから、基礎体力の向上、しなやかな体づくりへの取組は必要である。したがって、進んで体を動かして遊ぶことから、体力の基礎の向上やバランス感覚等が養えるよう、指導方法、園庭や遊戯室等の環境の工夫、機会を捉え、地域の環境を活用する等の取組を進めていく。
- 子どもが園生活で存分に遊ぶためには、一人一人が健やかであることが必要である。一人一人の健康保持・推進のためには、食事や睡眠、排泄等の習慣に興味や関心をもって取り組めるようにする等、健康な生活に必要な基本的な生活習慣を身に付けていけるように指導を工夫すること

が必要であると考え。並びに、子どもが健やかに育っていくためには、家庭との連携は欠かせないことから、取組への理解・協力のために、周知や情報発信等についても継続的に行っていく。

- 「学校園における働き方改革推進プラン」が策定されており、幼稚園現場においても教職員の負担軽減に向けた取組が進められている。本園においても、長時間勤務の解消や事務の効率化に向け、夏季休業期間等、長期休業期間中における閉庁日等の設定と継続実施、令和4年度より市立幼稚園で運用が開始された、校務支援システム（SKIP ポータル）校務機能・帳票導入・新ホームページ等、幼稚園における ICT を活用した効率的な業務の実施を目指すことが求められる。
- 自園の特色ある教育活動を行っていくためには、教職員が取組の方向性を共有し、連携しながら教育活動を進めていくこと、教職員それぞれが研鑽を積み、一層の実践力を身に付けていくこと等は、欠かせない。したがって、これら教職員の質の向上につながる取組として、専門的な知識・技能の習得の機会を設ける、教員の資質の向上に関する指標を活用し、キャリアステージに対応させながら、定期的に自己分析を行う等し、一層の資質の向上につながる取組を進めていく。
- 地域の現状として、核家族で集合住宅、高層マンション等に住む子育て世代が多く、子育て世代同士のコミュニケーションをとる機会が少ない。加えて、コロナ禍において、未就園児同士が日頃から関わり合う機会も少ない。幼稚園は地域の子育て支援センター的な役割を果たすため、幼稚園教育への理解・推進とともに、家庭教育や地域の子育ての支援となるよう、写真や情報誌、幼稚園における ICT としてホームページ等を活用しながら、特色ある取組の発信をすることが求められると考える。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 保護者アンケートで、「幼稚園は、生活の中で安全に過ごそうとする意識や習慣が身に付くように指導や環境の工夫をしている」ことについて、「そう思う」の割合を毎年、60%以上にする。
(1-6 安全教育の推進)
- 保護者アンケートで、「幼稚園は、社会生活に必要な基本的な態度や習慣が身に付くように指導や環境の工夫をしている」ことについて、「そう思う」の割合を毎年、50%以上にする。
(2-1 道徳教育の推進)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 保護者アンケートで、「子どもは、様々な体験を通して、自分なりに思いを表現することを楽しんでいる」ことについて、「そう思う」の割合を毎年、60%以上にする。
(3-1 就学前教育カリキュラム等に基づいた教育の推進)
- 保護者アンケートで、「子どもは、園生活の中で体を動かすことの楽しさや心地よさを感じている」ことについて、「そう思う」の割合を毎年、70%以上にする。
(5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進)
- 保護者アンケートで、「子どもは、基本的な生活習慣が身に付いてきている」ことについて、「そう思う」の割合を毎年、50%以上にする。
(5-2 健康教育・食育の推進)

【学びを支える教育環境の充実】

- ゆとりの日を月4回設定、並びに幼稚園閉庁日を夏季休業期間等、長期休業期間中に3日以上設定する。また、教職員アンケート調査で「校務支援システム（SKIP ポータル）校務機能・帳票導入、新ホームページ導入等、ICTを活用した業務について、操作技術が身に付いてきた」という項目について、「そう思う（ややそう思う）」の割合を令和7年度調査において80%以上にする。（7-1 働き方改革の推進）
- 教職員アンケートで、「研修等への参加や、振り返りの機会は、自身の資質向上につながっている」という項目について、「そう思う（ややそう思う）」の割合を令和7年度調査において80%以上にする。（7-2 教員の資質向上・人材の確保）
- 保護者アンケートで、「幼稚園は、教育方針や特色ある園運営についての理解・推進、家庭教育や地域の子育ての支援等に向け、写真や情報誌、ホームページ等で知らせている」という項目について、「そう思う（ややそう思う）」の割合を毎年80%以上にする。（9-1 教育コミュニティづくりの推進）

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- ① 保護者アンケートで、「幼稚園は、お子様が生活の中で安全に過ごすための約束や決まりを意識できるような指導や環境の工夫をしていますか」の項目について、「そう思う」の割合を60%以上にする。
- ② 保護者アンケートで、「幼稚園は、進んで身の回りの始末や整理整頓をしようとする態度が身につくような指導や環境の工夫をしていますか」の項目について、「そう思う」の割合を50%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 保護者アンケートで、「お子様は、様々な活動を通して、自分なりに表現することを楽しんでいますか」という項目について、「そう思う」の割合を60%以上にする。
- ② 保護者アンケートで、「お子様は、体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」という項目について、「そう思う」の割合を70%以上にする。
- ③ 保護者アンケートで、「お子様は、基本的な生活習慣が身に付いてきていますか（手洗いや食事等）」の項目について、「そう思う」の割合を50%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 教職員アンケートで、「校務支援システム（SKIP ポータル）校務機能・帳票、ホームページ、保育支援システム等、ICTを活用した業務について、操作技術が身に付き活用している」の項目について、「そう思う」の割合を70%以上にする。
- ② 教職員アンケートで、「研修等への参加や、振り返りの機会は、自身の資質向上につながっている」の項目について、「そう思う」の割合を70%以上にする。
- ③ 保護者アンケートで、「幼稚園は、教育方針や特色ある園運営についての理解・推進、家庭教育や地域の子育ての支援等に向け、写真や情報誌、ホームページ等で知らせている」の項目について、「そう思う」の割合を80%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

今年度は、幼児の実態に沿った見通しのある教育活動を展開できるよう、行事のあり方、日々の保育内容等を工夫しながら各取組を進めていった。

アンケート結果では全ての項目で高い肯定的回答の割合を得ることができた。園の姿勢が評価されたと捉えている。

【安全・安心な教育の推進】

学校安全計画に基づいて立てた安全教育の年間計画に沿って、また季節や子どもの実態に応じて指導することで、その時期に適切な園生活に即した実践をすることができた。また、教職員間で月の安全目標を共通理解することができるため、教材を工夫しながら、どのクラスでも同じ指導ができた。担任外の教諭による指導も子どもにとって刺激となった。子どもの実態を踏まえ、適宜、教職員で行事の在り方について話し合うことで、安全な環境、適切な取組について検討、共通理解し、保育を進めることができた。安全についてを特記した配布物を工夫し、安全な遊びの約束等の内容や写真を掲載することで、保護者にも分かりやすく取組を発信することができた。

年齢に応じた絵本や紙芝居等視聴覚教材や掲示物などを活用し、指導の工夫を行ったことで、日増しに物を大切にす気持ちや自分から身の回りの始末や整理整頓をしようとする態度、行動が見られるようになった。

中期目標に対する自己評価結果

毎年度当初に、地域の現状、園舎の構造上を踏まえた学校安全計画を作成し、子どもの実態に沿った防災・減災、並びに防犯に対する適切な指導を行うことができた。子どもに、安全・安心のための行動の仕方を知る、自分から危険を回避しようとする意識や態度が芽生えた。

園児の9割以上は、高層住宅に居住し、核家族であることで、家族以外の人と接したり、同年代の子どもとふれ合ったりする経験が少ない現状を踏まえ、友達や教師など、身近な人との関わりの中で、優しさや愛情、思いやりの気持ち、社会生活に必要な約束やきまりなどを知り、守ろうとする気持ちをもち、行動できるような取組を継続的に行った。これにより、その子どもなりに、身近な人への親しみをもち、規範意識や道徳性を育むことができた。

今後も、子ども自ら安全や安心に対する意識をもって行動できるように、社会状況、地域性、園の構造などを踏まえ、総合的・計画的・継続的に安全・安心のための指導の工夫を行っていく。また、幼児期にふさわしい、道徳心や規範意識、社会性が育まれるように、計画的な取組、指導方法、時期などの検討と精選を行い、実践していく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

季節や子どもの実態に合わせて、都度、教職員で話し合いを重ねて保育内容を検討し、一人一人が自分なりに表現することを楽しみ、自己発揮して活動ができるように工夫した。保護者には、保育内容や行事の様子を写真撮影し、よく分るように即時に大きなボードに掲示して取組を知らせた。毎月の園だよりや保健に関する情報誌で、各クラスの活動や異年齢活動、保護者との活動、毎回の保健指導の様子など、身近な人と関わる中で、心を動かし、自分なりに表現したり、体を動かしたりする様子、健康生活に対する子どもの様子を掲載することで、保護者、閲覧されている方々に、今年度の重点的な取り組みを分かりやすく発信することができ、教育内容の理解を得ることができた。

中期目標に対する自己評価結果

心を動かして様々な表現活動を楽しめるように、身近な自然や音や音楽に関わったり、つくったり、かいたりなど、表現を楽しめるための指導法を工夫した。これにより、発見や気づきに心を動かし、考えたり、試したり、工夫したりなど、その子どもなりに、いろいろな方法で表現を楽しむようになった。

近隣で存分に体を動かす環境が少ないこと、コロナ禍の感染症対策のため、出生してから室内で過ごすことが多かったことを踏まえ、地域や園庭、遊戯室などの環境を生かし、歩く機会を増やす、体を動かす活動を積極的に取り入れるなど存分に体を動かすことを楽しめるように、指導方法を工夫した。これにより、基礎体力の向上、しなやかに体を動かそうとするバランス感覚、たくましく体づくりに成果があった。

子どもが存分に遊ぶには、健康保持・推進は不可欠であるため、食事や睡眠、排泄などの習慣に興味や関心をもって取り組めるように、指導方法を工夫した。子どもの実態に応じた毎月の保健指導では、手作り教材や ICT 環境を積極的に活用した。これにより、健康生活への興味や関心、自分の体を大切にする意識が高まり、学んだことを実践しようとする子どもが増えた。

幼児期の教育で培った学びを小学校教育へと円滑につないでいくことの重要性が謳われている中、存分に遊ぶことを通して、幼児期にふさわしい学びを育むことが大切である。引き続き、指導や環境の工夫を行うとともに、園の取組、幼児の実態の周知・理解のために、保護者との連携はもとより、地域や小学校関係者などとの連携、情報発信を行っていく。

【学びを支える教育環境の充実】

積極的に校務支援システムの研修や実践、各研修参加、ゆとりの日や弾力的な運用による休業日を活用しながら、教職員一人一人が「何を優先するか」「子どもにとって本当に必要な活動は何か」等、幼稚園教育の本質を改めて見直し、保育の進め方の検討と実践の大切さを再確認することができた。ICT を活用した業務が中心となっていく中、ICT 活用の技術向上を進めていくとともに、これ以外の業務を含め、業務の効率化と精査を図り、一人一人の負担軽減に努めていくことが必要である。

園内研修保育や研修会や講演会、他園参観への参加、キャリアステージに応じた指標を用いて自己分析を行うことなどを通して、資質向上に努めた。自ら学び続ける教員として、職責、自身の経験及び適正に応じて、資質向上を図る手がかりとなった。目標や意欲、自覚をもつことができた。

教育方針や特色ある取組について理解のため、子どもの生活や活動の様子が分かる写真の即時掲示や掲示方法の工夫、園だよりを通して、表現を楽しんでいる様子、安全な生活についての取組の発信をした。取組理解となる肯定的な回答を得ることができ、成果があった。

中期目標に対する自己評価結果

「第2期 学校園における働き方改革推進プラン」の策定以降、令和8年1月には、「教員の魅力向上指針」「学校園の働き方ビジョン【2026-2029】」並びに「学校園における働き方改革アクションプラン」が策定され、益々、教員の高い専門性の尊重、業務の負担軽減への取組が進められている。本園においては、教職員への意識改革を図り、積極的に長時間勤務の解消や事務の効率化をあげているが、幼稚園は教職員数が少なく、様々な業務を兼務しており、園の実情も踏まえると、定時退勤は難しく、持ち帰りの業務が多いことが課題である。ICT の活用

としては、保育補助システムコドモンの一層の活用として、資料室やアンケート機能をいかしたり、キャンバアプリの操作を学び、取り入れたりしていきたいと考える。

自園の特色ある教育活動を行っていくために、研修の充実は欠かせない。園内研修保育や研修会や講演会、他園参観など、数多くの研修に参加し、研修後は学びを報告し、共有することで全体の資質向上ともなった。毎年度（年3回）「資質の向上に関する指標」をもとに自身を振り返ることで、ステージごとに、市が求めている幼稚園教員の資質を再確認でき、一層の職責と学び続ける教員としての自覚が高まり、資質向上につながった。

地域の現状として、核家族世代が多く、コロナ禍も重なり、子育て世代同士のコミュニケーション、子育てについての情報を交換する機会が少なかったことを踏まえ、積極的に、未就園児活動の実施と、園内外への園運営や取組内容の発信を行った。これにより、多くの未就園児家族が園に訪れるとともに、取組理解となる肯定的な回答を得ることができ、成果があった。

今後も、幼稚園教育の本質を充実させながら、教職員の負担軽減、業務の効率化に向けて、どのような取組が可能か、模索していく。また、引き続き、地域の子育て支援センター的な役割を果たしていけるよう、取組を継続していく。

大阪市立愛珠幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>① 保護者アンケートで、「幼稚園は、お子様が生活の中で安全に過ごすための約束や決まりを意識できるような指導や環境の工夫をしていますか」の項目について、「そう思う」の割合を60%以上にする。</p> <p>② 保護者アンケートで、「幼稚園は、進んで身の回りの始末や整理整頓をしようとする態度が身につくような指導や環境の工夫をしていますか」の項目について、「そう思う」の割合を50%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【1 安全・安心な教育環境の実現】 安全に過ごそうとする意識を育てるための指導や環境の工夫をする。 (1-6 安全教育の推進)</p> <p>指標 ・学校安全計画を見直し、絵本や掲示物などを活用して計画に沿った指導を行う。(年10回) ・保護者啓発をする。(情報誌を発行する:年3回) ・教職員の安全に関する意識を高める。(学期に1回の環境整備、AED講習) ・保護者アンケートを実施する。(7月・1月)</p>	A
<p>取組内容② 【2 豊かな心の育成】 ものを大切にすることを育て、進んで身の回りの始末や整理整頓をしようとする態度が身につくような指導や環境の工夫をする。 (2-1 道徳教育の推進)</p> <p>指標 ・絵本や紙芝居等視聴覚教材の活用、掲示物など各年齢にあった指導の工夫をする。(年3回) ・遊具や用具等を扱いやすく、片付けやすい環境を工夫する。(学期に2回) ・園内清掃をする。(年3回) ・保護者アンケートを実施する。(7月・1月)</p>	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標について】</p> <p>① 1月の保護者アンケートで、「幼稚園は、お子様が生活の中で安全に過ごすための約束や決まりを意識できるような指導や環境の工夫をしていますか」の項目について、「そう思う」の割合は97%であった。</p> <p>② 1月の保護者アンケートで、「幼稚園は、進んで身の回りの始末や整理整頓をしようとする態度が身につくような指導や環境の工夫をしていますか」の項目について、「そう思う」の割合は94%であった。</p>	

【中期目標の達成状況について】

- ① 保護者アンケートで、「幼稚園は、生活の中で安全に過ごそうとする意識や習慣が身に付くように指導や環境の工夫をしている」ことについて、「そう思う」の割合を毎年、60%以上にすることに対して、毎年達成した。全ての年度における「そう思う」の平均割合は95%であった。
- ② 保護者アンケートで、「幼稚園は、社会生活に必要な基本的な態度や習慣が身に付くように指導や環境の工夫をしている」ことについて、「そう思う」の割合を毎年、50%以上にすることに対して、毎年達成した。全ての年度における「そう思う」の平均割合は93%であった。

【取組内容について】

- ① 安全に過ごそうとする意識を育てるための指導や環境の工夫をする。
 - ・学校安全計画を見直し、絵本や掲示物などを活用して計画に沿った指導を行う。

(年10回)

学校安全計画に基づき、安全教育の年間計画を立てた。年間計画を立てることで月の安全目標を教職員間で共通理解し指導することができた。

4月…新学期準備で園庭遊具の置き場の見直し(カラーテープで印付け、写真掲示)
園庭の遊具の遊び方(実物で指導)
道路の歩き方(事前指導、おさんぽデーで実際に歩きながら指導)
避難訓練の約束(視覚物)

5月…道路の歩き方(事前指導、おさんぽデーで実際に歩きながら指導)

6月…傘の扱い方(誕生会の教師の劇)
プール開きでのプール指導(視覚物、教師の劇)
大雨・津波の避難訓練(視覚物)

9月…滑り台指導(5歳児が3歳児に伝えながらの指導)
運動遊びで使用する用具、遊具等の扱い方(遊びながら実物で指導)

10月…運動会に向けた園庭整備(全園児一緒に石拾い)
電車の乗り降りの指導(事前指導、実際に乗り降り時に声掛け)

11月…製作時の道具の扱い方(ハサミ、セロハンテープの使い方等実物で指導)

12月…暖房器具使用時の約束(カラーテープで印付け)
1月…地震・津波の避難訓練(視覚物)
2月…寒い時期の過ごし方(ポケットに手を入れると危ないことを伝える視覚物)
 - ・保護者啓発をする。(情報誌を発行する:年3回)

計3回、発行した。
(きまりや約束について、暑さ対策や安全管理について、防災教育について)
指導の様子やポイントを啓発した。(別紙資料参照)
 - ・教職員の安全に関する意識を高める。(学期に1回の環境整備、AED講習)

1学期…新学期準備で、子どもが遊具を安全に使いやすいように環境を整えた。6月にプールを組み立てた際、園庭の遊具を精選した。プール遊びが始まる前に救急救命講習を受けた。昨年度、教職員全員受けたので、心肺蘇生法やAEDの使用法を復習し、思い返しながら実技を行うことができた。その場で質疑応答ができ、より理解が深まった。実際に事故が起こった際、誰がどの役割でもできるよう意識しながら講習を受けることができた。

2学期…始業式前日、草引きや園庭の遊具などの環境整備をした。園庭の土をならし、安全に運動遊びができるようにした。2学期開始後、長期間、暑い日が続いた

ので、熱中症予防のためにクラス担任と養護教諭がその日の予想気温や活動内容等の情報を共有し、子どもたちがこまめに水分補給ができるようにした。涼しい部屋で休息をとれるように遊戯室や絵本室も日常的に使用したりなど、子どもたちが安全に過ごせるようにした。

3学期…2学期末から引き続き、暖房器具使用時立ち入らない場所が分かるように、暖房器具の周辺の床を色ビニールテープで囲い、環境を整備した。また、劇遊びやダンス、楽器等を安全に楽しめるように、遊戯室や保育室、廊下の環境を整えた。場を整えたことで安全に遊ぶことができた。

・保護者アンケートを実施する。(7月・1月)

7月、1月に保護者アンケートを実施した。

②物を大切にすることを育て、進んで身の回りの始末や整理整頓をしようとする態度が身につくような指導や環境の工夫をする。

・絵本や紙芝居等視聴覚教材の活用、掲示物など各年齢にあった指導の工夫をする。

(年3回)

<1学期>

3歳児…絵本「あーっとかたづけ」写真表示の割合が多い絵本で、視覚的に分かりやすい内容の本を読んだ。

4歳児…絵本「おうちにかえりたい」片付けをおうちにかえりたという言葉に置きかえて、片付けに興味を持てるような内容の本を読んだ。

5歳児…絵本「かたづけしないとどうなるの?」なぜ片付けをしなければならないのかを自分で考えられる内容の本を読んだ。片付けをしなかったことで、困りごとが出ていた。

<2学期>

3歳児…絵本「かたづけやさーい」野菜たちが楽しそうに片付けをしていて、片付けが段々楽しくなってくる内容の本を読んだ。

4歳児…「ぐりとぐらのおおそうじ」子どもたちが馴染みのある、ぐりとぐらが力を合わせて楽しく掃除をする内容の本を読んだ。

5歳児…「ななちゃんのおかたづけ」登場人物が、片付けのしくみを分かりやすく教えてくれて、片付ける大切さと気持ち良さを感じられる内容の本を読んだ。

<3学期>

3歳児…絵本「くずかごおばけ」ものを大切にする重要さを教えてくれる内容の本を読んだ。

4歳児…絵本「いちにちおもちゃ」玩具を大切に扱うことや片付けをすることの大切さを知る内容の本を読んだ。

5歳児…絵本「もったいないばあさん」物を大切にする心、再利用の知恵を教える内容の本を読んだ。

保育室の絵本棚にも置いて、いつでも読める環境を整えたことにより、絵本に親しみ、物を大事にする態度や、進んで片付けができるようになった。

・遊具や用具等を扱いやすく、片付けやすい環境を工夫する。(学期に2回)

<1学期>

園庭、保育室の環境を整えた。園庭では、遊具の配置や数を見直した。三輪車やスクーターは色分けしたビニールテープで片付ける場所を囲った。バランスペダルもビニールテープで片付ける枠をつくり、その中に立てられるようにした。砂場の玩具の掲示物

を貼り替えた。色分けした囲いや枠、掲示物があることで片付けがしやすくなった。

水遊びの玩具のカゴに絵表示を付け、使用時も片付け時も分類できるようにした。

保育室では、3歳児は、ロッカーの中に入れる身の回りの物を写真掲示して知らせた。4、5歳児は、部屋の個人カゴの中に、牛乳パックで作った箱を入れて、その中にカラー帽子を入れ、カゴの中の整理整頓をしやすくした。

誕生会の教師が行う演技では、人形やペープサートを使用し、片付けや物を大切にできるような内容を行った。人形等のやり取りから、片付けについて理解していた。

4、5歳児は自分がかいた絵をラミネートし、製作に使用する敷き紙を作成した。個人ロッカーに入れて常時使用している。大事に扱いロッカーに片付けている。

5歳児は、あやとりの収納ポケットを用意し、子どもそれぞれが自分であやとりを出し入れしたり、片付けたりして遊べるようにした。

<2学期>

定期的に片付けをすることで、整理整頓の習慣が身に付いてきている。

運動会では、今後の活動の見通しに合わせ、遊具の種類や量を精選し、片付けやすくした。

こどもてんらんかいに向けては、素材を入れる箱をつくり、素材毎に絵表示をつけた。子ども自ら種類別に分けて入れることにより、自分の使いたい物を探しやすく、進んで製作に取り組むことができた。

<3学期>

職員同士で、各保育室を見回り、玩具を扱いやすく、片付けしやすい環境の工夫の意見を出し合い、保育室の環境に取り入れることに努めた。環境を整えたことにより、片付けしやすくなり、丁寧に片付けることができた。整理整頓した環境の心地よさを感じて、自発的にトイレのスリッパも脱いだ後は揃えて並べるようになった。

3歳児は、部屋の玩具置き場に写真を貼り片付けやすくしたり、廊下に楽器を置いて遊んだ後の収納の工夫したので、進んで片付けをする態度が身に付いた。

4、5歳児は、楽器を種類別に分けて片付けやすくしたことで、楽器を大事に扱えるようになった。製作で使った画用紙を再利用して色別に分けて収納し、次の製作の時に使えるようにした。

これらにより、ものを大切にする気持ちが一人一人に育ち、身の回りの始末や整理整頓の習慣が身に付いた。

・園内清掃をする（年3回）

<1学期>

創立記念式の前に、園児と保護者で、園内清掃をした。

夏休み前に、子どもたちと一緒に各保育室でロッカーやカゴ等の拭き掃除をした。靴箱の掃き掃除、拭き掃除をした。掃除をすることで、整理された部屋を気持ちよく感じられるようになった。

<2学期>

運動会、こどもてんらんかい前に、子どもたちと廊下や保育室の掃除をした。掃除をすることで、物を丁寧に扱う姿が見られるようになった。

<3学期>

次年度に向けてと一年間過ごした保育室や園庭の遊具を丁寧に掃除をした。園内掃除をすることにより、ものを大切にして扱う態度が身に付いた。

- | |
|---|
| ・保護者アンケートを実施する。(7月・1月)
7月・1月に保護者アンケートを実施した。 |
| 次年度への改善点 |
| ① 引き続き、子どもたちの実態に応じて、適時、必要な指導を工夫しながら行っていく。
② 引き続き、整理整頓と物を大事にする態度が身に付くよう、指導や環境の工夫を行っていく。 |

(様式2)

大阪市立愛珠幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>① 保護者アンケートで、「お子様は、様々な活動を通して、自分なりに表現することを楽しんでいますか」という項目について、「そう思う」の割合を60%以上にする。</p> <p>② 保護者アンケートで、「お子様は、体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」という項目について、「そう思う」の割合を70%以上にする。</p> <p>③ 保護者アンケートで、「お子様は、基本的な生活習慣が身に付いてきていますか(手洗いや食事等)」の項目について、「そう思う」の割合を50%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【3 幼児教育の推進と質の向上】</p> <p>心を動かし、自分なりに表現することを楽しめるような指導や環境の工夫をする。</p> <p>(3-1 就学前教育カリキュラム等に基づいた教育の推進)</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">・長期を見通し、つながりのある保育が行えるように指導案の形式を見直して書式や内容を共通し、作成する。(期案: 年8回・週案: 通年)・身近な人との関わりを工夫する。(おさんぽデー・集会・みんなあそび・地域との交流等)(月1回)・保護者や地域への啓発をする。(ホームページへの掲載: 年10回)・保護者アンケートを実施する。(7月・1月)	
<p>取組内容②【5 健やかな体の育成】</p> <p>進んで体を動かして遊べるような指導や環境の工夫をする。</p> <p>(5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進)</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">・園内研修を実施する(年3回)・保護者とのふれあい活動を工夫する。(誕生会: 11回)・歩く機会を増やす。(おさんぽデー: 年5回)・保護者アンケートを実施する。(7月・1月)	
<p>取組内容③【5 健やかな体の育成】</p> <p>基本的な生活習慣の大切さを知らせ、身につけられるように指導を工夫する。</p> <p>(5-2 健康教育・食育の推進)</p>	A
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">・基本的な生活習慣に関する指導について年間計画を見直し、保健指導を実施する(年5回)・保護者啓発をする。(情報誌を発行する: 年5回)・保護者アンケートを実施する。(7月・1月)	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標について】

- ① 1月の保護者アンケートで、「お子様は、様々な活動を通して、自分なりに表現することを楽しんでいますか」の項目について、「そう思う」の割合は97%であった。
- ② 1月の保護者アンケートで、「お子様は、体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目について、「そう思う」の割合は96%であった。
- ③ 1月の保護者アンケートで、「お子様は、基本的生活習慣が身に付いてきていますか（手洗いや食事等）」の項目について、「そう思う」の割合は89%であった。

【中期目標の達成状況について】

- ① 保護者アンケートで、「子どもは、様々な体験を通して、自分なりに思いを表現することを楽しんでいる」ことについて、「そう思う」の割合を毎年、60%以上にすることに対して、毎年達成した。全ての年度における「そう思う」の平均割合は94%であった。
- ② 保護者アンケートで、「子どもは、園生活の中で体を動かすことの楽しさや心地よさを感じている」ことについて、「そう思う」の割合を毎年、70%以上にすることに対して、毎年達成した。全ての年度における「そう思う」の平均割合は96%であった。
- ③ 保護者アンケートで、保護者アンケートで、「子どもは、基本的生活習慣が身に付いてきている」ことについて、「そう思う」の割合を毎年、50%以上にすることに対して、毎年達成した。全ての年度における「そう思う」の平均割合は89%であった。

【取組内容について】

- ① 心を動かし、自分なりに表現することを楽しめるような指導や環境の工夫をする。
 - ・長期を見通し、つながりのある保育が行えるように指導案の形式を見直して書式や内容を共通し、作成する。（期案：年8回・週案：通年）

年間で期案を計8回作成し、週案は各クラス作成した。期案を共有したり、次週の保育について共通理解したりすることで、保育に見通しをもつことができた。

- ・身近な人との関わりを工夫する。（おさんぽデー・集会・みんなあそび・地域との交流等）（月1回）

身近な人との関わりを工夫した。（月1回以上）日々のクラス間交流や年間を通した地域との交流などを通して互いに親しみをもち、思いを伝え合うようになってきた。

4月…全園児で共通のダンスをした。同じタイミングで活動する時間を確保することで、他クラスの友達や教師を知るきっかけとなった。

緒方ビルでレンゲ摘みをした。一緒にレンゲ摘みをしたり、地域の方と話したりすることで、地域の方に親しみをもつきっかけとなった。

5月…全学年で中之島バラ園に行った。ペアになって歩くことで、年長児が年少児を思いやる姿が見られた。

6月…年長児が緒方ビルで田植えを経験した。4月にレンゲ摘みをした場所で地域の方に教えてもらったことで、安心して楽しく田植えをすることができた。

7月…開平小学校とのプール交流を行った。小学校のプールと一緒に入ったり、その後お礼の手紙をかいたりして交流することを楽しんだ。

8月…緒方ビルで田んぼ見学をした。稲の生長を一緒に見守る喜びを感じることができた。

9月…リズム遊びや運動会の競技を見合う機会を設けたことで、自然と手拍子をした

り応援したりする姿が見られた。

1 0月…運動会の取り組みを互いに経験できるように音楽を鳴らしたり、環境を整えたりした。互いに見合う中で憧れ、やってみたいと思っていた活動をできるようにしたことで、喜んで参加する姿が見られた。

1 1月…てんらんかい前に各クラスの作品を互いに見合った。振り返りの時に、作品を見て気付いたことを自分なりに言葉で伝えようとする姿が見られた。

1 2月…緒方ビルで田植えをして育った稲の稲穂取り、脱穀・精米を行った。地域の方と一緒に大切に育ててきた稲が米になるまでの過程を知ることができた。

1月…発表会ごっこを通して、互いの歌や楽器遊び、劇遊びなどを見たり、聞いたりした。立ち方や動き方などを見て刺激を受け、自分たちの遊びをより楽しめようとする機会になった。

2月…除痘記念館、適塾へ行き、緒方洪庵について知る機会を設けた。歴史的建造物を見たり、継続的に関わってきた方から話を聞いたりしたことで、地域への親しみがより深まった。

3月…ひなまつりのひな人形を見て、ひな人形の製作をした。幼稚園で古くから大事にしている人形であることを知らせ、保護者と一緒に見たことで、より親しみをもつことができた。

・保護者や地域への啓発をする。(ホームページへの掲載：年10回)

計140回掲載した。

・保護者アンケートを実施する。(7月・1月)

7月、1月に保護者アンケートを実施した。

② 進んで体を動かして遊べるような指導や環境の工夫をする。

・園内研修を実施する。(年3回)

園内研修を9月、1月に計2回実施した。目標回数には届かなかったが、保育を振り返り、意見を出し合うことで保育を高めるいい機会となった。

・保護者とのふれあい活動を工夫する。(誕生会：12回)

計12回、実施した。誕生児と保護者のふれあい活動では、自然と体を動かすことが楽しめるよう内容を工夫し、毎月の誕生会で実施することができた。

4月…さんぽ

5月…こちょこちょでんしゃ

6月…はじまりの合図

7月…むしむしジャンケン

8月…ペンギンのプール体操

9月…せかいをまわせ

10月…せかいをまわせ

11月…ぶろっこりん体操

12月…ひつつきもつつき

1月…こすれこすれ

2月…おんせんはいろっか

3月…お誕生月なかま

・歩く機会を増やす。(おさんぽデー：年5回)

計11回、実施した。近くの施設への散歩や地域の方との交流などの機会を設けた。

- 4月…中央公会堂、緒方ビル（レンゲ摘み）
- 5月…中之島バラ園
- 6月…緒方ビル（田植え）、大阪取引所（七夕飾り見学）
- 7月…開平小学校（プール交流）
- 8月…緒方ビル（稲の生長見学）

10月…緒方ビル（稲刈り）

11月…中央公会堂（大阪市立幼稚園音楽会）

2月…緒方ビル（除痘記念館見学）、適塾、開平小学校（給食参観）

年度当初は、近場の身近な場所に行き、地域に親しみながら友達と一緒に散歩することを通して歩く機会を増やした。1学期から2学期へ段階的に距離を伸ばしたことで、子どもが無理なく楽しく散歩に出かけることができ、自然と体力がついた。

- ・保護者アンケートを実施する。（7月・1月）

7月、1月に保護者アンケートを実施した。

③ 基本的生活習慣の大切さを知らせ、身につけられるように指導を工夫する。

- ・基本的生活習慣に関する指導について年間計画を見直し、保健指導を実施する（年5回）
保健教育年間計画を作成し、概ね計画通りに実施できている。

4月…衣服の着脱

衣服の脱ぎ方・畳み方・前後の確認・裏返しの方法など、基本的な着脱について指導した。その後も継続的に指導し、自分で考えて行動する姿が見られている。大半の子どもが正しい着脱をすることができている。

5月…手洗い

4・5歳児は、新年度初めに、うがいの仕方について指導している。それに続き、正しい手の洗い方について知らせた。5歳児は、体験型指導を行った。蛍光塗料を疑似汚れに見立てて塗り、手洗い後にブラックライトの下に手をかざすと洗い残しが光り、正しい手洗いができているかどうか確認することができる。可視化することにより、より丁寧に手を洗おうとする姿が見られた。

6月…生命（いのち）の安全教育

自分の体を大切にすることを知らせる生命の安全教育を実施した。水遊びやプール遊びが始まり、衣服を着脱する機会が増える時期に合わせ、プライベートパーツに関する内容について知らせた。それに加えて、プールでの衣服の着脱の環境構成を見直し、全学年ラップタオルを導入することにした。個人差はあるが、自分の体を守る、大切にする言動が見られている。

7月…夏野菜（食育）

栽培活動を通して、食べることへの関心が高まり、自分や身近な人が育てた野菜を食べる喜びを感じている。弁当の中に収穫した野菜を入れてきたり、貰った野菜に挑戦しようとしたり、食べる意欲が高まってきている。

9月…早寝早起き

デジタル紙芝居「くじら列車」を作成し、早寝早起きの大切さについて知らせた。継続的に早寝早起きに取り組むことができるように、指導後から「cujica（クジカ）チャレンジ」を行った。※朝9時までに登園できた子どもは、くじら改札を通ることができる。

ICカードのcujica（クジカ）を作成し、くじら改札を通る子どもへ配布した。普段、登園が遅い子どもも、くじら改札を通るために早寝早起きに取り組んでいた。子どもだけでなく、保護者の方の意識変容が見られる指導となった。

1 0月…歯みがき

3歳児は、10月から昼食後の歯みがきを開始した。4・5歳児は、歯みがきの大切さを確認しながら、丁寧にみがく方法を知らせた。昼食後、各学年で一斉に歯みがきをすることを繰り返し実施し、食後の歯みがき習慣が身に付くようにした。音楽や視覚物を使用して、効果的な指導ができた。

1 1月…かぜ予防

例年より早く感染症が流行したため、手洗い・うがい・咳エチケットについて指導した。咳やくしゃみをする時に飛沫を飛ばさないように腕で防いだり、マスクを着用したりするなど、周りの人へ配慮する意識が高まる様子が見られた。

1 2月…食育

5歳児は、世界の料理について、3・4歳児は、日本の伝統的な食事について知らせた。いろいろな国の料理や調理方法を知ることによって食への関心が大いに高まった。また、日本の食文化を大切にする気持ちが芽生えるように、家庭で活用できる情報誌を発行した。

1 月…早寝早起き

長期休業後の生活リズムを整えるために、早寝早起きの重要性や睡眠の大切さについて知らせた。また、9月に行った cujica (クジカ) チャレンジを再度行った。より興味をもって取り組むことができるように、くじら改札を改造したことで、子どもだけでなく保護者の注目も集まり、時間内に登園する子どもが増えた。改めて、早寝早起きの大切さを実感する機会となった。

3 月…1年間の振り返り

4月からの1年間の保健教育活動について写真を見て振り返り、今後の健康行動につながるようにした。1年間の成長を喜ぶとともに、前向きに健康診断を捉えたり、健康に過ごす方法を考えたりする姿が見られた。

- ・保護者啓発をする。(情報誌を発行する：年5回)

計5回、発行した。(健康診断、生命の安全教育、防災教育、おせち料理、1年間の振り返り)

指導の様子やポイントを啓発した。(別紙資料参照)

- ・保護者アンケートを実施する。(7月・1月)

7月、1月に保護者アンケートを実施した。

次年度への改善点

- ① 次年度も子どもの興味や実態に応じた活動を取り入れることで、自分の思いを表現できるようにしていく。
- ② 引き続き、進んで体を動かす楽しさを味わえるよう、活動の内容を工夫する。
- ③ 子どもの実態を捉え、時期に応じた保健教育を実施する。教材を再構成し、継続的な指導を行う。

大阪市立愛珠幼稚園 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>① 教職員アンケートで、「校務支援システム(SKIP ポータル)校務機能・帳票、ホームページ、保育支援システム等、ICTを活用した業務について、操作技術が身に付き活用している」の項目について、「そう思う」の割合を70%以上にする。</p> <p>② 教職員アンケートで、「研修等への参加や、振り返りの機会は、自身の資質向上につながっている」の項目について、「そう思う」の割合を70%以上にする。</p> <p>③ 保護者アンケートで、「幼稚園は、教育方針や特色ある園運営についての理解・推進、家庭教育や地域の子育ての支援等に向け、写真や情報誌、ホームページ等で知らせている」の項目について、「そう思う」の割合を80%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>負担軽減、業務の効率化や操作技術習得に向けた取組を行う。 (7-1 働き方改革の推進)</p> <p>指標 ・ゆとりの日を設定する。(月4回)</p> <p>・始業日、終業日の弾力的な休業日の運用について取り入れ、効果的な業務の遂行にいかす。(学期毎年3回)</p> <p>・校務支援システム、ホームページ、保育支援システム等、ICTを活用し、園内操作研修会を実施するなど、効果的な園運営を工夫する。(年10回)</p> <p>・教職員アンケートを実施する。(7月・1月)</p>	A
<p>取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>研修会や講演会、他園参観等への参加、キャリアステージに応じた指標を用いて自己分析をする。 (7-2 教員の資質向上・人材の確保)</p> <p>指標 ・園内研修保育の実施(年3回)</p> <p>・研修会や講演会、他園参観への参加(年10回)</p> <p>・「資質の向上に関する指標」を活用し、各自で振り返りを行う。(学期毎3回)</p> <p>・教職員アンケートを実施する。(7月・1月)</p>	A
<p>取組内容③【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>教育方針や特色ある取組について発信方法を工夫する。 (9-1 教育コミュニティづくりの推進)</p> <p>指標 ・子どもの生活や活動の様子が分かる写真の即時掲示や掲示方法を工夫する。(年10回)</p> <p>・園だよりで発信する。(表現を楽しんでいる様子・安全な生活についての取</p>	A

<p>組の様子：年 8 回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自が目標回数を設定し、ホームページを更新する。(記事の作成、日々の活動の様子、幼稚園だより、保健だより、配布文書の作成など：各自年 3 回～10 回程度) ・保護者アンケートを実施する。(7 月・1 月) 	
<p>中期目標並び年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>【年度目標について】</p> <p>① 月の教職員アンケートで、「校務支援システム (SKIP ポータル) 校務機能・帳票、ホームページ、保育支援システム等、ICT を活用した業務について、操作技術が身に付き活用している」の項目について、「そう思う」の割合は 100%であった。</p> <p>② 1 月の教職員アンケートで、「研修等への参加や、振り返りの機会は、自身の資質向上につながっている」の項目について、「そう思う」の割合は 100%であった。</p> <p>③ 1 月の保護者アンケートで「幼稚園は、教育方針や特色ある園運営についての理解・推進、家庭教育や地域の子育ての支援等に向け、写真や情報誌、ホームページ等で知らせている」の項目について、「そう思う」の割合は 92%であった。</p> <p>【中期目標について】</p> <p>① ゆとりの日を月 4 回設定、並びに幼稚園閉庁日を夏季休業期間等、長期休業期間中に 3 日以上設定することについて、全ての年度で達成した。 教職員アンケート調査で「校務支援システム (SKIP ポータル) 校務機能・帳票導入、新ホームページ導入等、ICT を活用した業務について、操作技術が身に付いてきた」という項目について、「そう思う (ややそう思う)」の割合を令和 7 年度調査において 80%以上にするに対して、「そう思う (ややそう思う)」は 100%であり、達成した。</p> <p>② 教職員アンケートで、「研修等への参加や、振り返りの機会は、自身の資質向上につながっている」という項目について、「そう思う (ややそう思う)」の割合を令和 7 年度調査において 80%以上にするに対して、「そう思う (ややそう思う)」の割合は 100%であり、達成した。</p> <p>③ 保護者アンケートで、「幼稚園は、教育方針や特色ある園運営についての理解・推進、家庭教育や地域の子育ての支援等に向け、写真や情報誌、ホームページ等で知らせている」という項目について、「そう思う (ややそう思う)」の割合を毎年 80%以上にするに対して、毎年達成した。全ての年度における「そう思う (ややそう思う)」の平均割合は 100%であった。</p> <p>【取組内容について】</p> <p>① 負担軽減、業務の効率化や操作技術習得に向けた取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりの日を設定する。(月 4 回) 月 4 回、「ゆとりの日」を設定した (計 47 回)。「ゆとりの日」は毎月の行事予定表を立案する際に、年間行事予定案に基づき計画的に設定した。今年度は、園全体でゆとりの日を活用しやすいよう、主に水曜日に取り入れるようにし、出張から直帰したり、退勤しやすい雰囲気づくりをしたりといった体制をとった。意識化が進むように、職員室の行事表に目立つ色やマークで大きく記した。加えて、当日の職員朝礼時に「ゆとりの日」であることを改めて知らせ、各自が進んで業務の効率化を図った。 しかしながら、定時退勤は難しく持ち帰りや休日の業務が多いことが課題である。 ・始業日、終業日の弾力的な休業日の運用について取り入れ、効果的な業務の遂行にいか 	

す。(学期毎年3回)

学期毎に1回実施した(7月24日、12月24日)。プール片付け、打ち合わせ、園庭整備、次年度準備などの計画を組み、タイムスケジュールと段取りを整えた。園内整理は、作業量が多い場所以外は各担当を決め、各自で実施日時を調整して行えるようにした。始業日、終業日の弾力的な運用による休業日の設定の推進とともに、作業時間の自由度が増したことにより、全教職員のゆとりや協力体制ができ、円滑に業務を進めることができた(3学期は3月24日予定)。

- ・校務支援システム、ホームページ、保育支援システム等、ICTを活用し、園内操作研修会を実施するなど、効果的な園運営を工夫する。(年10回)

校務支援システム操作を伴う作業が定着し、各自が分掌に責任をもち業務を行った7、8月には、新ホームページへの移行に伴い、対面研修やオンライン研修を受け、テスト操作するなど準備を進め、2学期以降にはホームページ更新に活用した。(12回)

保育補助システムコドモンを活用し、今年度から毎日の降園時保護者連絡を毎日担当を交代し、全教員で配信した。コドモンアンケート機能の操作を学び、調査や行事の感想などで活用した。降園時の、保護者への口頭での伝達が大幅に減少し、十分に教育内容や子どもの姿を伝えることができた。教職員の負担軽減、教育的な保護者啓発、連絡事項を記録に残すことができた。保護者啓発においては、キャンバアプリの活用やコドモン資料室活用も試みている。

- ・教職員アンケートを実施する。(7月・1月)
7月、1月に教職員アンケートを実施した。

② 研修会や講演会、他園参観等への参加、キャリアステージに応じた指標を用いて自己分析をする。

- ・園内研修保育の実施(年3回)

9月、1月に2回、実施した。目標回数には届かなかったが、異年齢での関わりや互いの保育を見せ合うなどの機会をもち、保育の充実や資質向上にいかした。

- ・研修会や講演会、他園参観への参加(年10回)

計144回、参加した。全国大会にも参加した(7月全国国公立幼稚園・こども園教育研究会、8月滋賀：全国幼児教育研究会、11月大阪：造形表現、図画工作、美術研究大会・12月京都：関西幼稚園子ども園連合会教育研究大会)。積極的に研修会や講演会、研究会等に参加し学びは自己の向上に生かし、役立った。伝達と資料回覧により、学びを共有することができた。

- ・「資質の向上に関する指標」を活用し、各自で振り返りを行う。(学期毎3回)

今後の園運営、実践に自身の力を発揮するため、各学期末に「教員としての資質の向上に関する指標(幼稚園 参考版)」を活用し、それぞれが日々の行動、保育観、実践力等、振り返りを行った。自ら学び続ける教員として、職責、自身の経験及び適正に応じて、資質向上を図る手がかりとなった。目標や意欲、自覚をもつことにつながった。3学期末に1回実施予定である。

- ・教職員アンケートを実施する。(7月・1月)
7月、1月に教職員アンケートを実施した。

③ 教育方針や特色ある取組について発信方法を工夫する。

- ・子どもの生活や活動の様子が分かる写真の即時掲示や掲示方法を工夫する。(年10回)
計34回、掲示した。園生活や子どもの活動の様子を写真撮影したものを大きなボードに掲示することで保護者と子どもと一緒に関心をもって熱心に見ている。自園への取組や子どもの姿を知らせるよい機会となっている。保護者からは「写真で見ると楽しく活動していることがよく分かります。」と、取組への理解の声が多く寄せられている。(園行事、好きな遊び、園外保育、蓮華摘みから稲作・脱穀精米への活動、PTA活動等)

- ・園だよりで発信する。(表現を楽しんでいる様子・安全な生活についての取組の様子：年8回)

計9回、記載した。園だよりに「今月のたのしいな♪」として、子どもたちがいろいろな友達や先生、身近な人と関わったり(クラスの活動や異年齢活動)、体を動かしたりして楽しんでいる様子を写真付きで掲載している。また、園内外での約束や取り組みの一層の理解に向け、安全に関する資料を別紙として発信した。取組を具体的に記載することで、保護者にも分かりやすく発信することができた。(別添資料参照)

- ・各自が目標回数を設定し、ホームページを更新する。(記事の作成、日々の活動の様子、幼稚園だより、保健だより、配布文書の作成など：各自年3回～10回程度)

計148回、掲載した。学校日誌では、日々の活動や子どもの様子を発信した。各自年3回～10回程度の更新目標を意識し、学校日誌作成や配布文書の設定等、各自で作業を精選し、無理なく取り組んだ。

幼稚園だより；5月～計10回更新。保健関係資料：5月～計5回更新。いろいろな分野の取組を発信することで、保護者のみならず市民等、多くの方々に対し、様々な取組を理解していただくことにつながった。

- ・保護者アンケートを実施する。(7月・1月)

7月、1月に保護者アンケートを実施した。

次年度への改善点

- ① 次年度も、月4回「ゆとりの日」を設定し、業務内容の見直しを含め業務の効率化とともに定時退勤に努める。
- ② 資質向上に向け、引き続き、次年度も研修会や講演会へ積極的に参加する。また「資質の向上に関する指標」を各自が効果的に活用する。
- ③ ホームページの各自更新目標を意識し、一定期間を振り返りながら、学校日誌、配布文書の設定等、各自精選し、無理なく取り組めるようにする。引き続き、保護者への教育内容の理解につながるよう、情報の内容を工夫し、発信する。